

戰史資料

歩三。第三大隊

一、編成裝備關係

1. 自己部隊及關係部隊ノ編成人員 將校以下一四五名

兵器 小銃 970 刺刀 12 大銃 2 輕機 36 手榴彈 36 拳銃 36 軍刀 22 短銃 2

彈藥 小銃彈 310,000 大銃彈 210,000 手榴彈 6,000 拳銃彈 1,400 飛煙筒 5,000 手榴筒 2,000 手榴彈 30,000 大銃砲 3,000

糧食 200 米 12 菜 3,400 手紙 90

2. 職員表(別紙ナリ、如シ)

3. 人員兵器等ノ増減關係 消耗ノ他変化ナシ

4. 台灣人、鮮人、現地住民使役ノ關係

陣地構築作業ノ爲メ、四月以降一五〇名内外ヲ常時使

用ス(防衛隊女子奉公隊)

二、部隊發展ノ概要

昭和十九年三月三日編成完了後同年七月一日ハルピン島新駐地上陸  
洞輸送業務ヲ從事ス

同年七月二十日宮古島上陸而後陣地守備陣地構築飛テ  
場作業ヲ從事ス

二十年三月二十日三月二十日天号作戦ニ参加ス

此、同盛加陣地 63 名地 平良ノ地方地特号半島守備五ニ陣地  
構築ニ當リ聯隊ノ中核トナリ主要任務ニ從事ス

終戦後ハ盛加附近ニ在リテ直チラ現地自治五ニ保健ノ増強ニ當リ  
一、復員ヲ待機シアリシカ一月ニテハ米給付ヤクソン号ニ乘船

一月三日主力全員浦賀ニ上陸ス

三、指揮隸屬關係其ノ変遷ノ概要

大隊ノ第一聯隊長ノ直轄トナリ才一隊ニ在リテ守備ニ任ス

四、作戰準備關係

1. 作戰計畫ノ概要

2. 陣地ノ概況

別紙要圖ヲ一五至一四ノ如シ

3. 作戰準備ニ關スル主要ナル命令

(1) 昭和十九年七月盛加附近復原陣地ノ構築  
敵上陸セハ逐次戦力破壊陣前惠威

(2) 昭和十九年十月一奉和高地ノ腰原一川端北方約一〇〇〇米ノ  
玄地ノ線ニ於テハ一歩前進陣地ノ構築

敵上陸セハ逐次戦力破壊陣前惠威

(1) 昭和二十年三月主力田強ノ陣地(能第変更ニ依リ主抵抗陣  
地トナル)構築一部ヲ以テ水際ニ於テ甚大ナル損害ヲ受ヘル  
後極力敵ノ戦力ヲ破壊陣地前及内ニ於テ惠威ス

(2) 昭和二十年七月狩保半島ニ転進水際陣地構築  
狩保半島ニ一歩ト進ニ陸セシメテ水際ニ惠威

4. 軍需品ノ集積状況

軍需品集積

昭和十九年若迄各分散抱合セ集積トセシモ尔後洞窟内ニ集積

現地自治

昭和二十年四月状況ノ推移ト共ニ上司ノ指導ト相俟テ一部  
兵カト民力ヲ使用シ甘藷及野菜自作ニ努カシテ不後配  
備ノ変更等ニ依リ支障アリシモ上下一致ノ誠カラナル在田  
勵ニ依リ終戦ノ当時ノ主食不足及不後復原員ノ多ク  
未だ至ル迄之カ以復原調ニシテ克ク食糧難ヲ克服  
シ得タリ

5. 訓練ノ状況

陣地構築ト併行シ各隊及各人ノ任習完遂ノタメノ戦斗  
動作及之カ達成ノタメノ陣地修築等ノ研究地形ノ暗識等  
戰場必須ノ訓練ニ重点ヲ指向セリ

1. 幹部以下現地任習ニ基テ訓練

実号指揮 機進新辺訓練  
各自任務ニ基ク財曹訓練

2. 大隊長ニ於テ統制訓練セシ教者目

1. 各隊分隊教練(陣地変更、都度実施)

2. 徳者増習日各十及中隊ノ交互訓練

3. 小隊教練査閲三四

4. 中隊教練査閲二回

5. 集團檢閲一回受ク

### 五. 戦中状況

1. 吾ガセル主要ナル作戰(戦中)、概要

昭和十九年十月十日、十月十三日南五空襲戦中参加

同二十年三月、三月天早作戰ニ参加

### 2. 機動部隊事情概況

昭和二十年四月間島附近ヲ敵巡洋艦四隻ヲ約二時間ニ

亘リ艦砲射撃ヲ受ケタルモ損害ナシ

### 3. 敵機ノ来襲状況

昭和二十年一月下旬ヨリ冬戦時迄連日敵機ノ来襲アリテ

二〇機乃至二五〇機所爆撃ヲ大隊陣地附近ニ約四五〇発ヲ受ケ

爆撃機列ヲ拒メ戦死者名員傷一ニ名、他被害ナシ

### 4. 敵機ノ損害

特設部隊ニ依リ他損害ヲ受ケタルヲ認めス

5. 落下傘不時着降下者ニ対スル処置 ナシ

6. 敵俘虏数 ナシ

### 六. 冷害衛生

上陸以來南方特有ノ気候風土ヲ克服シ作戰ノ要求上傳染

病汚染地帯特ニマラリア地帯ニ入りテ日夜準備陣地構築

ニ専念セリ又冷害ノ甚ク不良ニテ冷害ノ粗悪ト過激

ナル業習ノ疲勞トニテ約九十五名ノ犠牲者ヲ出セリ

七、終戦ヲ屏置テノ行動ノ概要

終戦後ハ食糧補給ノ至難ト現地調辦ノ不能ヲ看破シ  
現地自活ニ専念シ且保健懸念ノ増進特ニマラヤノ四世患者  
ノ根絶ヲ目標トシ萬全ノ努力ヲ傾注シ其々之ヲ實現ニ  
向ヒンアリン所一月二十五日頃命令ニ接ラルヤ大隊長指揮  
ノ下有正ト帯取ヲ開始シ一月三十日那覇先発者ヲ除キ全  
員並ニ浦里ニ入塔

復員局ノ指定セル場所ニ宿營各ニ所屬ノ処違ヲ受ケタル後  
二月二日復員ヲ完結ス

		若善官小							佐少		長	
中	十	第	隊	中	九	第			部		本	
中尉	中尉	大尉	中尉	中尉	中尉	大尉	少尉	少尉	中尉	大尉	中尉	
大野	榎野	岡本	杉山	宮崎	丹羽	高橋	伊賀	原	芝田	都筑	柳澤	
裕史	勇	義一	育三	一郎	米吉	久平	辰雄	正義	實	鋼太郎	圓進	
	隊	中	機	隊	中	十	第	隊	中	一	第	
中尉	中尉	中尉	大尉	少尉	少尉	中尉	大尉	中尉	中尉	中尉	少尉	
	藤上	近藤	香取	鈴木	石黒	山本	永江	坂本	仙田	小清水	平田	
	勇	博	忠裕	祐司	敬一	進	新造	光彦	達郎	恒	良作	

將校職員表

第三大隊

陸軍

(納米田田島)

Handwritten notes in vertical columns on the right side of the page.

大	隊
長	隊
中	隊
少	隊
久保	寺
健	一

陸軍

(明治元年四月)

# 圖要况概地陣及畫計我作

自昭和十九年七月  
至昭和十九年九月

方針

陣地前方ニ於テ極力敵方ヲ殲滅シ陣地ヲ固クシテ  
ニ於テ重兵ヲ入

$$\frac{4}{300} (+ \frac{1}{2} R: A. \frac{1}{2} T: A)$$

陣地狀況

(1) 起工時期 昭和十九年七月

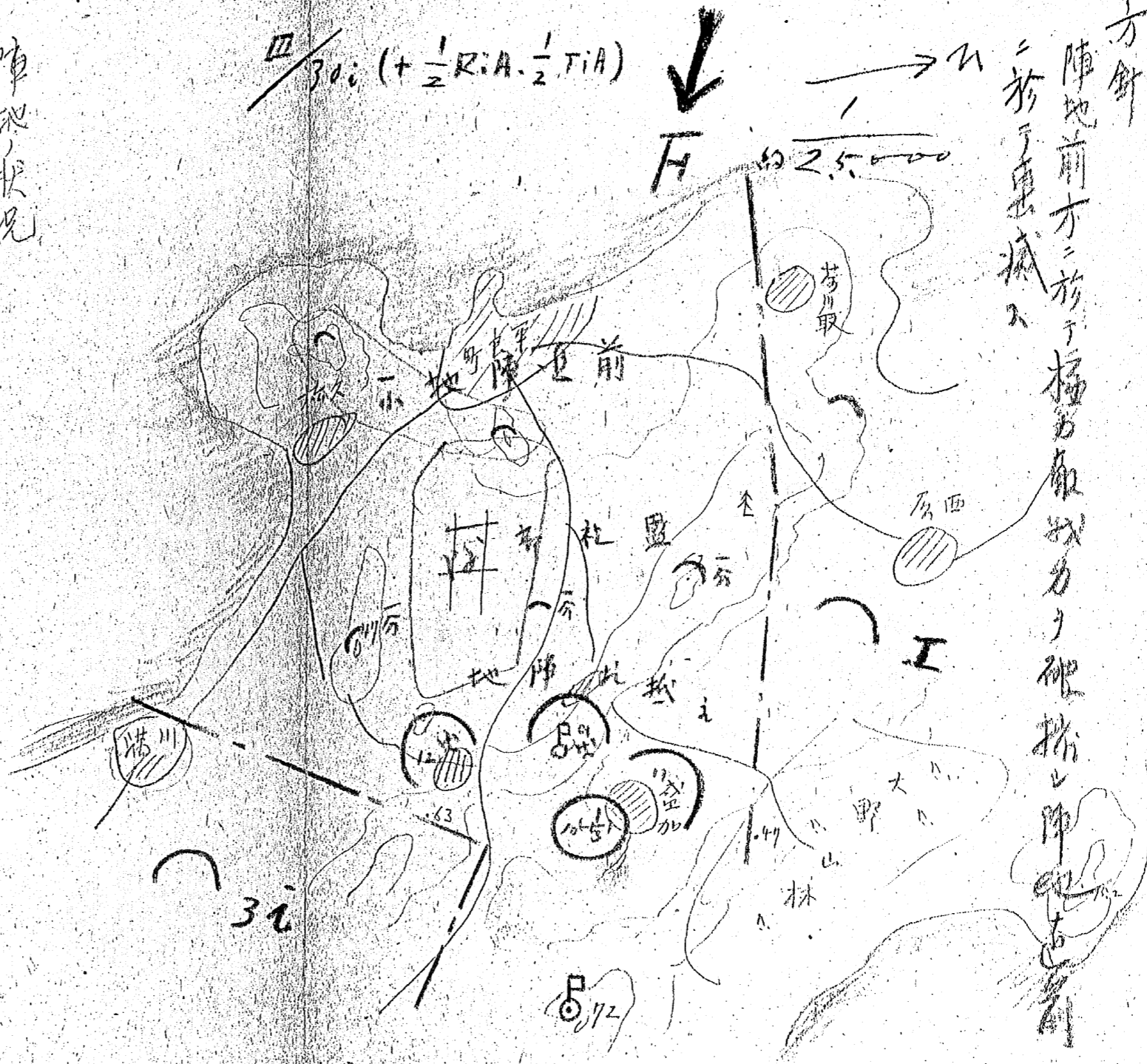
所要人員 步兵大隊約四百人 一月計畫兼行作業  
使用材料 松材(重約五百斤) 五、一六〇本

(2) 完成時期 昭和十九年九月下旬

強度 重裝散部 各少隊三個構成

自衛兵器 中掩擊砲三挺

各兵器各個掩擊砲



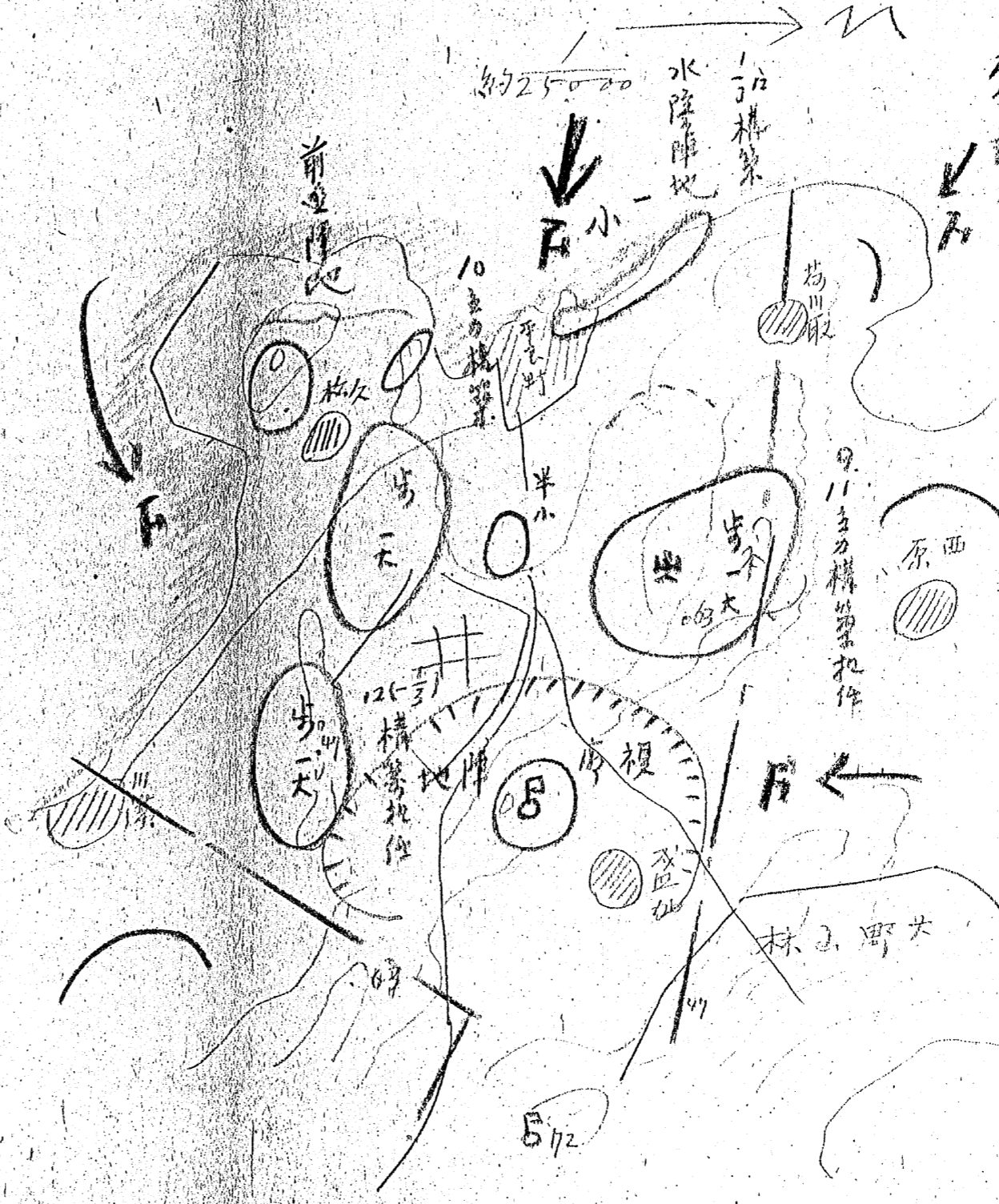


# 圖要况概地陣及畫計作

自昭和十九年十月  
至昭和二十年一月

方針

陣地前方之防衛一高兵方之防衛及掩護  
及敵方之防衛一極力破壞陣地直達  
集積地



陣地ノ状況

(一) 起工時期 昭和十九年十月

所要人員 各據地兵隊二生兵一平隊 兵力

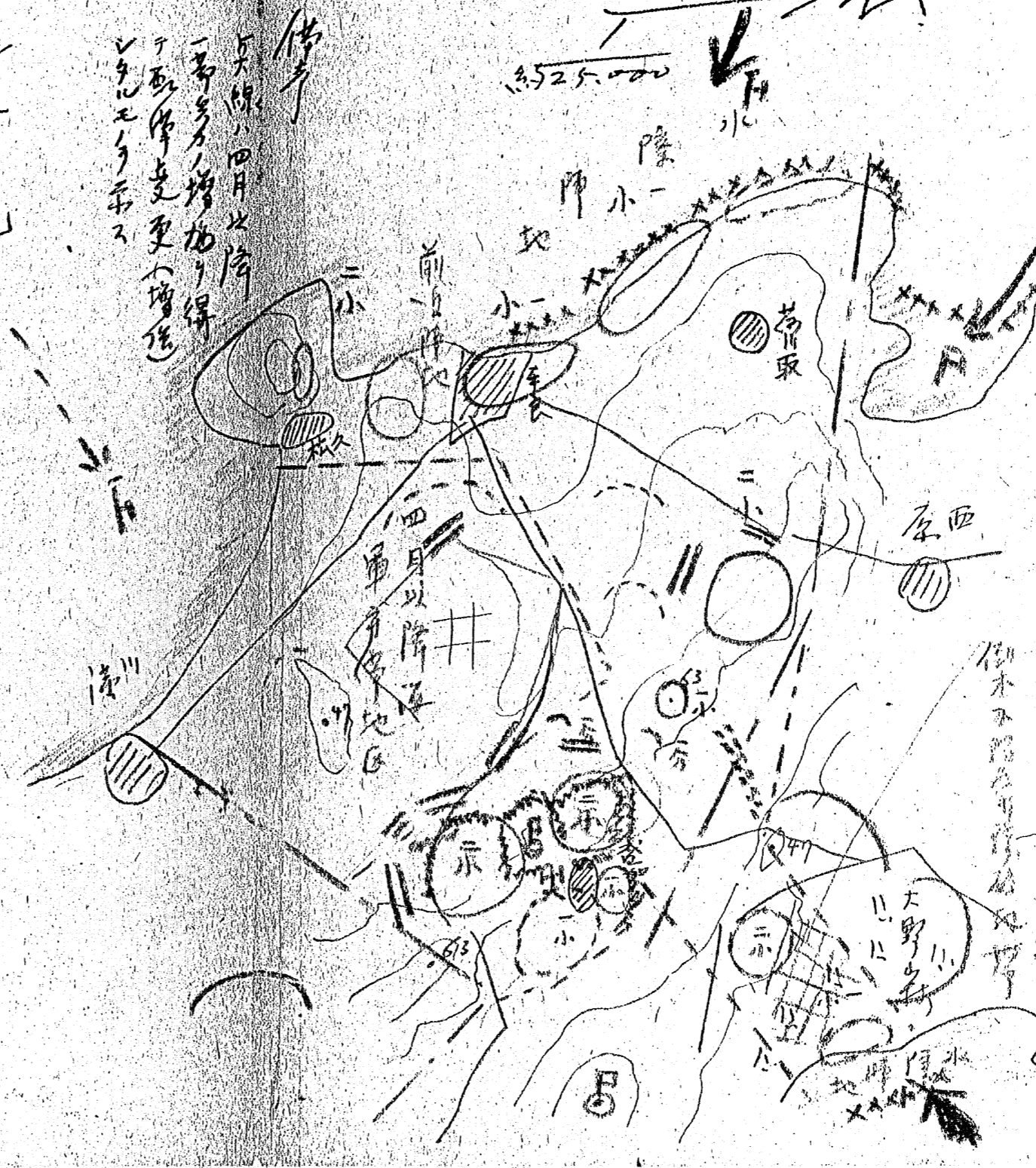
(二) 完成時期 昭和二十年一月 (概成)

使用兵力 重掩護部各少隊二個重隊  
自動兵隊 輕掩護部各少隊

各出界(由甲隊)完成

自昭和十二年十二月二日  
至昭和十二年十二月六日

# 作戰計畫及陣地概況要圖



水際に於て敵は甚大に援軍ヲ入ル後陣地前  
方ニ於テ組織的抵抗及襲撃等ニ依リ極力奮戦  
破壊陣地迄前線陣地ニ至リ敵ヲ集めて

備考

兵線は四月以降  
一萬五千人増加し得  
て陣地變更も増加  
し約二万五千人

## 陣地ノ狀況

(一) 起工時期

昭和十二年一月

所要人員

四月迄一約一千四百人

信用以次

核機

陣地中七、八〇〇本  
水際中一、五〇〇本  
有利鉄線一五〇

(四) 完成時期

四月以降着手(掘成)

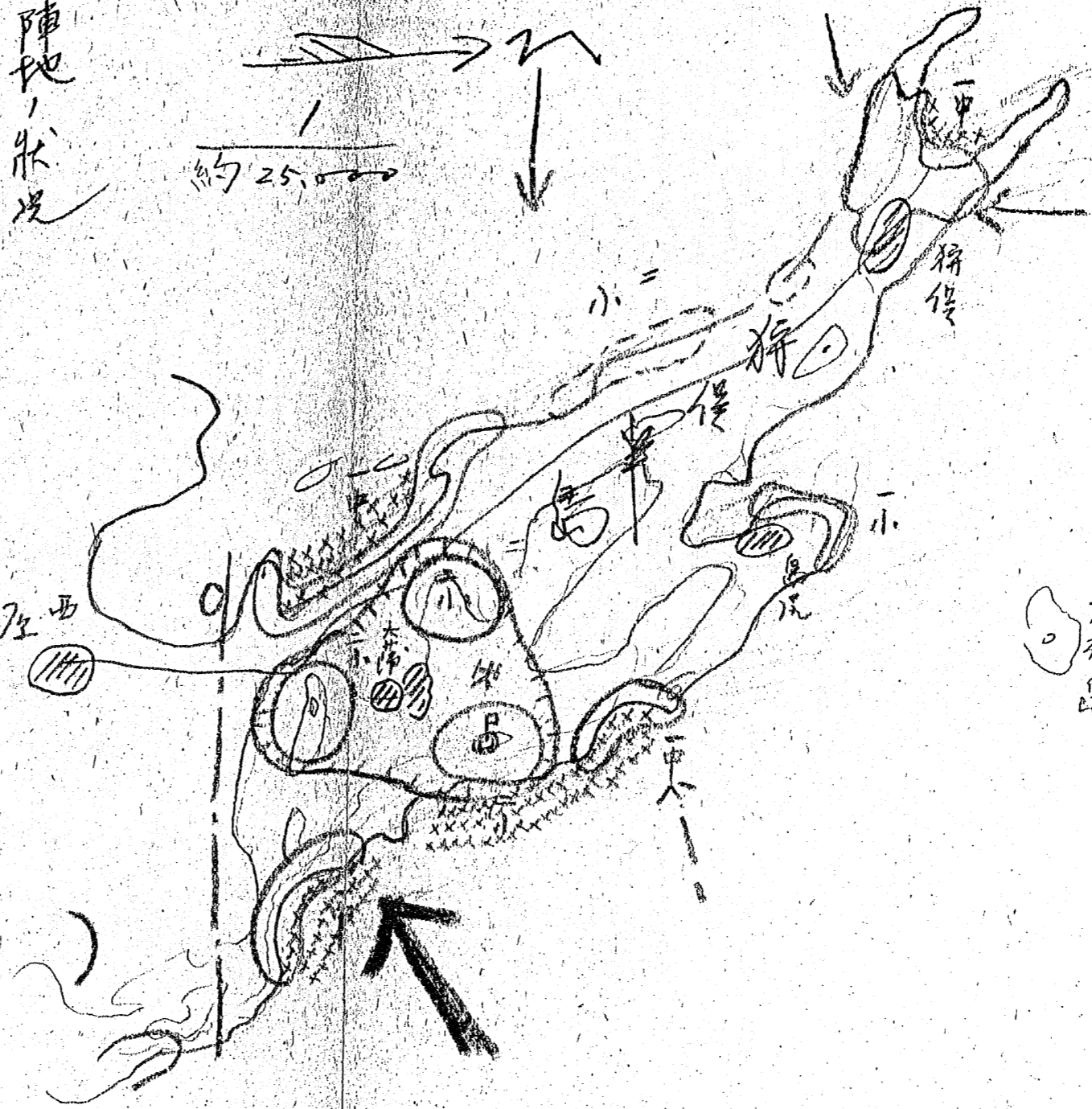
後方 重機材等より各少く二個迄  
自働兵器 半掩護等迄  
指揮砲臺 生機等迄  
障礙物 立地等迄

圖要况概地陣及畫計我作

自昭和十二年七月  
至昭和十二年八月

其四  
方針

神保半島三上階セト上ル敵ヲ水際ニ驅リ入ル



陣地ノ状況

(1) 起工時期 昭和十二年七月

所要人員 約一千五百人

信用地帯

核部 水際中 三三〇〇本

陣地中 五〇〇〇本

星形陣地 三三〇〇

(2) 中核部

個人據拠

物資貯蔵所

物資貯蔵所